〔指定管理者制度導入施設〕〔Ａ調書〕

事業評価調書〔途中評価〕（平成３０年度）

１．施設の名称等

施設名称	長崎県美術館
所在地	長崎市出島町２番１号

事業所管課（室）長名	文化観光国際部	文化振興課
	本多　敏博	

総合計画上の位置づけ			
	基本戦略	２	交流を支える地域を創出する
	施策	（２）	文化・スポーツによる地域活性化
	事業群	①	文化・芸術による地域づくり

２．施設の概要

設置年月日	平成17年4月23日
設置法令等	長崎県美術館条例（平成15年12月22日）
設置目的	地域の活性化及び芸術文化活動の拠点として、優れた美術作品の鑑賞及び学習の機会を提供するとともに、創作活動及び作品発表等の支援を通じて、生涯学習に対応した文化的環境の整備を図り、もって新たな長崎県の文化の創出に寄与する。
利用対象者等	主な利用対象者：県民及び県外客 開館時間：午前10時～午後8時、休館日：第2、第4月曜日（祝日の場合は翌日）
施設内容	敷地面積9,914㎡、建築面積5,209㎡、延べ面積10,092㎡ 企画展示室、常設展示室1～5、運河ギャラリー、県民ギャラリー、ホール(150席)、講座室、アトリエ、ミュージアムショップ、カフェ、情報コーナー
施設の利用料金体系	**施設の利用料金体系** 〔常設展利用料金〕

	一般	大学生	小中高生	70歳以上	備考	○免責事項
普通観覧料金	400円	300円	200円	300円		※県内在住の小･中学生は無料。 ※障害者手帳保持者及び介護者1名は無料。 ※学校行事の一環として、県内の小･中･高･盲･ろう･養護学校生が利用する場合は、引率の教員を含め無料。
団体割引料金	320円	240円	160円	240円	15名以上	

〔貸館利用料金〕

名称	面積(㎡)	利用料金(入場無料の場合)	備考
県民ギャラリー	940	32,900円／日	※入場料を徴収する場合は、左記の1.3倍 ※入場料を徴収しない展覧会等のうち、教育目的や公的機関の利用については10～3割の減免措置あり。
運河ギャラリー	170	2,890円／日	
ホール	210	6,500円／回	
講座室	70	2,600円／回	
運河劇場	330	990円／回	
屋上庭園	1,200	6,100円／回	

類似施設の設置状況

施設名		岩手県立美術館	島根県立美術館	富山県美術館
入館料	一般	410円	300円	300円
	大学生	310円	200円	無料
	高校生以下	無料	無料	無料
利用者数（H28実績）		44,235人	229,038人	1,152,264人
指定管理者制度導入		平成18年4月1日	平成17年4月1日	平成18年4月1日
管理運営負担金（H29予算）		249,061千円	289,101千円	271,669千円
述べ床面積		13,000㎡	12,498㎡	14,990㎡
指定管理形態		管理（学芸部門は委託）	管理（学芸部門は直営）	管理（学芸部門は直営）

県予算 区分（単位：千円）			平成26年度（実績）	平成27年度（実績）	平成28年度（実績）	平成29年度（実績）	平成30年度（計画）
財源		国庫					
		その他（諸収入、繰入金）	344,170	344,653	353,624	353,524	347,866
		一般財源	15,296	38,023	5,384	4,857	15,444
事業費＜Ａ＞			359,466	382,676	359,008	358,381	363,310
内訳		管理運営負担金	343,635	342,035	342,035	342,035	342,035
		その他（特別経費負担金等）	15,831	40,641	16,973	16,346	21,275
人件費＜Ｂ＞			16,134	16,112	16,084	16,092	15,992
合計＜Ｃ＝Ａ＋Ｂ＞			375,600	398,788	375,092	374,473	379,302
単位あたりコスト			1	1	1	1	1

（説明）「当事業による入館者１人あたりの運営費用」＝Ｃ÷（入館者数）

３．指定管理者の概要

指定管理者の名称等	≪所在地≫　長崎市出島町２番１号 ≪名　称≫　公益財団法人　長崎ミュージアム振興財団 ≪代表者氏名≫ 理事長　中牟田　新一
指定期間	平成 ２７ 年４月１日　～　平成 ３３ 年３月３１日
業　務	①施設（設備）の維持・修繕等 ②美術館の運営（展示、調査研究活動、生涯学習・教育プログラム、国内外の美術館との連携） ③美術館のマネジメント（集客、営業、ＰＲ、イベント企画、ボランティアの活用等） ④ミュージアムショップ、カフェの経営

利用料金制	■ 導入済	未導入	選定方法	■ 公募	非公募

４．成果指標の達成状況及び管理運営に要した経費等の収支状況

成果指標の達成状況									
① 本展・移動展や遠隔授業等の実施市町数 ② 来館者満足度 ③ 県民ギャラリー稼働率 ④ 美術館入館者数（参考値）				（目標値の根拠） ①博物館・美術館で5年間で県内全市町（21市町）で実施を目指す。 ②アンケート5段階評価における年間平均において、80%以上の満足度を目指す。 ③90%以上の稼働率を目指す。				＜３０年度実施における変更点＞	
実　績			単位	平成26年度（実績）	平成27年度（実績）	平成28年度（実績）	平成29年度（実績）	平成30年度（計画）	
①	a	目標値				5	5	5	
	b	実績値				9	5		
	c	達成率b/a	%			180	100		
②	a	目標値		4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	
	b	実績値		4.2	4.2	4.2	4.3		
	c	達成率b/a	%	105	105	105	107		
③	a	目標値		90	90	90	90	90	
	b	実績値		100	100	100	99		
	c	達成率b/a	%	111	111	111	110		
④	a	目標値		375,000	380,000	－	－	－	
	b	実績値		435,270	389,226	371,897	346,736		
	c	達成率b/a	%	116	102	－	－		

指定管理者の収支状況		事業計画（H 29 ）		平成26年度（実績）	平成27年度（実績）	平成28年度（実績）	平成29年度（実績）	平成30年度（計画）
		（千円）	実績－計画					
収入	利用料金	67,771	-13,502		49,474	65,329	54,269	47,080
	県負担金	342,035	0		342,035	342,035	342,035	342,035
	その他	90,794	21,333		183,391	100,587	112,127	118,283
	計a	500,600	7,831	0	574,900	507,951	508,431	507,398
支出b		499,180	8,607		569,464	516,646	507,787	506,923
	うち人件費	117,714	1,664		113,359	116,500	119,378	122,012
収支a-b		1,420	-776	0	5,436	-8,695	644	475
配置職員数（人）		常勤 非常勤	常勤 非常勤	常勤 非常勤	常勤　２５ 非常勤　０	常勤　２３ 非常勤　０	常勤　２５ 非常勤　０	常勤　２４ 非常勤　０

※この収支は指定管理者が行う管理運営にかかるものであり、この他に県が直接負担したものとしては、「２　施設の概要」の「県予算」の「その他」がある。

≪表その２：管理運営負担金の対象事業を定めている場合は、次の表を使用する。≫

指定管理者の収支状況		事業計画（H 29 ）		平成26年度（実績）	平成27年度（実績）	平成28年度（実績）	平成29年度（実績）	平成30年度（計画）
		（千円）	実績－計画					
負担金事業	県負担金		0	343,635				
	その他		0	316				
	収入計a	0	0	343,951	0	0	0	0
	支出b		0	343,951				
	うち人件費		0	112,430				
収支a-b		0	0	0	0	0	0	0
その他事業	利用料金		0	76,716				
	その他		0	113,101				
	収入計ｃ	0	0	189,817	0	0	0	0
	支出ｄ		0	186,020				
	うち人件費		0	0				
収支ｃ－ｄ		0	0	3,797	0	0	0	0
配置職員数（人）		常勤 非常勤	常勤 非常勤	常勤　２５ 非常勤　０	常勤 非常勤	常勤 非常勤	常勤 非常勤	常勤 非常勤

５．平成２９年度事業の実施状況・実績の検証

	計　　画	実　　績
管理運営の状況	＜指定管理者実施分＞ ①美術館の管理運営業務	＜指定管理者実施分＞ ①施設の清掃、警備、機器運転業務、各種保守点検等の業務は、協定書に基づき適正に実施された。
	②調査研究業務	②収蔵作品に関する調査研究、保存修復に関する調査研究、展覧会企画に関する調査研究、生涯学習支援に関する調査研究、美術情報に関する調査研究、須磨コレクションに関する調査研究について、協定書に基づき進めた。
	③他の美術館、博物館との連携事業	③釜山市立美術館との相互ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ事業を実施した。
	④生涯学習、教育普及事業	④学校教育との連携事業であるｽｸｰﾙﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑを実施し、11,430人の子ども達が参加した。 移動美術館を実施し、遠隔地の方々へ美術作品に親しむ機会を提供した。（対馬市、五島市） ﾃﾚﾋﾞ会議ｼｽﾃﾑを利用して遠隔地の小中学校と遠隔授業を実施した（新上五島町、平戸市）
	⑤アートボランティア事業	⑤約120名のボランティアが、展示事業や生涯学習事業、広報、館運営などの美術館事業全般に渡るボランティア活動を実施した。
	⑥広報マーケティング事業	⑥展覧会やイベント毎にプレスリリースを配信し、取材誘致を行った。 ＨＰへのアクセス数は前年度をやや下回る653,387件（前年度比96.3%）であったが、企画展「スタジオジブリ・レイアウト展」へのアクセス数は多かった。またメルマガの配信やツイッターの活用など、美術館に興味を持つ人へ定期的かつ確実に新しい情報を発信した。
	（利用料金、その他自主事業）	（利用料金、その他自主事業）
	⑦常設展事業	⑦長崎ゆかりの作家である田川憲を丁寧に紹介する展覧会の評価は高かったが、入場者は館目標をを下回る43,958人にとどまった。
	⑧企画展事業	⑧県内施設の展覧会競合等の影響により、前期の入場者数が計画比で約50%にとどまった。中期に約90%まで持ち直したものの巻き返しは難しく、総入場者数は117,731人（計画比71.1%）にとどまった。（←H29企画展の総入場者数目標は165,500人）
	⑨施設貸出事業	⑨県民ｷﾞｬﾗﾘｰ、ﾎｰﾙ・講座室等の利用促進に努めた。 県民ｷﾞｬﾗﾘｰでは70展覧会、延べ展示日数360日（稼働率99%）の利用となった。県民ｷﾞｬﾗﾘｰ等の利用者数は188,476人であり、全入館者数の54.3%を占めている。
	⑩ショップ・カフェ事業	⑩指定管理者の自主事業であるショップ・カフェ事業ともに、入館者数の低迷に比例して売上げは伸び悩んだものの、例年赤字を計上していたカフェ事業は、展覧会と連動した期間限定メニューの提供、原価率の低廉化や適切な人員配置等により前年度に引き続き黒字となった。
	＜県実施分＞ ①施設や備品の修繕業務等	＜県実施分＞ ①チラー電動弁や監視カメラ設備の修繕といった改修工事や外壁の劣化診断を実施した。

検　　証

〇年間入館者数は「館目標」の380,000人に対して346,736人で館目標を下回ったものの、来館者の満足度は86%と目標の80%を上回ることができた。
〇企画展事業について、当初は博物館の「ジブリ大博覧会」に引き続き「レイアウト展」を開催することで相乗効果を狙っていたが、大博覧会が色々な世代が楽しめる体験型の展覧会であったのに対し、レイアウト展は原画展示等が主であるニッチな展覧会であったため、大展覧会に引き続き来館いただくのが結果的には難しかった。また、レイアウト展開催時に博物館では同じく体験型の「チームラボ」が開催されたことも入館者減につながったと考えられる。ジブリ大博覧会と会期が重なった「マリー・ローランサン展」についても客層が重ならないと当初想定していたが、大博覧会の積極的な広告等により結果的には大きく影響を受け、目標の半分にも満たなかった。年間を通して目標入館者数を達成した企画展はなく、全体的に見通しが甘かったと言わざるをえない。また、広報力、営業力の向上も今後重要と考えられる。
〇県民ギャラリーの稼働率は99%と目標90%を上回ることができた。貸施設全体の利用者数は188,476人と全入館者数の54.3%を占めており、県民の文化活動の場として広く活用されている。

収支の状況

収支計画・実績

＜指定管理者実施分＞

（単位：千円）

主な項目		計画	実績	増減理由・収支改善の取り組み等
収入ａ		500,600	508,431	
	負担金	342,035	342,035	
	利用料金	67,771	54,269	入館者数が伸び悩み、展覧会事業の収入が大幅に減少した
	（うち常設展収入）	(6,308)	(5,967)	
	（うち企画展収入）	(51,072)	(38,996)	
	その他	90,794	112,127	ショップ収入については夏休期間のスタジオジブリ・レ
	（うちショップ収入）	(48,336)	(64,458)	イアウト展での高い売上により計画比増。一方、カフェ
	（うちカフェ収入）	(18,700)	(16,415)	収入については来館者減少により計画比減
支出ｂ		499,180	507,787	
	負担金	342,035	342,035	
	（うち施設維持管理費）	(12,989)	(13,382)	
	利用料金	83,583	81,716	
	（うち常設展支出）	(9,751)	(5,848)	
	（うち企画展支出）	(73,832)	(75,868)	
	その他	73,562	84,036	ショップ支出についてはスタジオジブリレイアウト展の
	（うちショップ支出）	(41,953)	(62,613)	仕入原価が高かったことと、人件費増等により計画比増
	（うちカフェ支出）	(17,678)	(16,387)	
収支a-b		1,420	644	

＜県実施分＞

検　　証

〇多客を期待していた企画展の入場者が伸び悩み、企画展事業で大きな赤字を計上した。
〇例年赤字を計上していたカフェ事業は、展覧会と連動した期間限定メニューの提供、原価率の低廉化や適切な人員配置等により前年度に引き続き黒字となった。

指定管理者制度の導入効果を踏まえた施設の設置目的の達成状況の総合評価	A

（説明）
〇生涯学習・教育普及事業では、学校との連携事業であるスクールプログラムの実施、移動美術館の開催、遠隔授業の実施、企画展に関連したワークショップの実施など、幅広い年齢層へ学習の機会を提供した。
〇優れた美術作品の鑑賞及び学習の機会を提供するとともに、創作活動及び作品発表等の支援を通じて、生涯学習に対応した文化的環境を提供しており、事業面においては期待した成果が上がっていると評価できる。
〇また出島表門橋開通を記念してオランダウィークを実施し、地域との連携をより強固なものとした。
〇指定管理者の自主事業であるカフェ事業については、展覧会と連動した期間限定メニューの提供、原価率の低廉化や適切な人員配置等により前年度に引き続き黒字となった。
〇総入館者数は「館目標」である380,000人を下回る346,736人となったが、来館者の満足度は高い。
〇企画展事業については、種々の要因があったにせよ目標入館者数を達成した企画展がなかったことから見通しが甘かったといわざるをえない。外的要因に左右されない広報力の向上が今後益々必要である。

６．平成３０年度事業の実施にあたり見直した内容

内　　容

〇本格的な江戸絵画や現代美術をはじめ、ポピュラーコンテンツ、長崎ゆかりの美術など多様なジャンルの展示を行い、多くの県民のニーズに応えるとともに20～40代女性や若年層といった新たな来館者層の発掘を図り、交流人口の増大に寄与する。
〇カフェ事業はコスト縮減を維持しながらも企画展と連動したメニューの提供などにより、黒字幅を拡大していく。

７．平成３０年度事業の評価

指定管理者の行う管理運営等に関する評価	視点	評価	判定理由
	・施設の設置目的にあった管理運営が行われているか。	a	・「大江戸展」を中心に大型の企画展を複数開催する。常設展では東松照明、舟越保武ら長崎ゆかりの作家を紹介することで、どの世代も楽しめる計画となっている。 ・県民の文化・芸術活動の充実に貢献するため、県民ギャラリーやホール等の貸し施設の利用を促進している。
	・住民の公平かつ平等な利用の確保が行われているか。	a	・利用料金の減免について明確な基準を作成し、ホームページで公開することによって、住民の公平かつ平等な利用を確保している。 ・遠隔地の住民の方にも、美術館の作品を鑑賞する機会を提供するため、年２回の移動美術館を予定している。
	・利用者に質の高いサービスの提供が行われているか。	a	・来館者アンケート調査によって、利用者の満足度を把握するとともに、利用者の声を館の運営に活用することで、サービスを向上させている。 ・アートボランティアの研修を定期的に行い、サービスの質の向上を図っている。
	・施設・設備の維持管理は適切に行われているか。	a	・施設設備の保守点検、清掃等の実施については、協定書に基づき適切な管理が行われ、施設の機能は適正に維持されている。
	・収入の確保に向けた取り組みが行われているか。	a	・企画展は、集客力のある魅力的な大型展を計画している。カフェは、収益改善を図るため抜本的な対策を実施している。
	・経費節減に向けた取り組みが行われているか。	a	・全館的に事務的経費や光熱水費の節減に取り組んでいる。
	（その他の観点）　　※評価区分（ａ：行われている　　ｂ：一部行われていない　　ｃ：行われていない）		

施設の在り方についての評価	視点		評価	理由
	必要性	・県民ニーズに照らして、事業の必要性が薄れていないか。	■ a. 薄れていない b. 一部薄れている c. 薄れている	入館者アンケートによると、入館者に占める県民の割合が平成28年度が1002人中83%、平成29年度が1000人中86%を占めており、必要性は十分ある。
		・事業を取りまく環境、経済情勢などの変化に適応しているか。	■ a. 適応している b. 一部適応していない c. 適応していない	地域活性化の核となり、文化を活かしたまちづくりの拠点となっている。
		・市町または民間に移管・移譲することが適当（可能）ではないか。	■ a. 適当（可能）でない b. 一部適当（可能）でない c. 適当（可能）である	県が政策的に設置した美術館であるため、市町では県全体の施策が実現できず、民間移譲では文化の継続性が保持できない。
	効率性	・県の負担や業務量に見合った活動結果が得られているか。	a. 得られている ■ b. 一部得られている c. 得られていない	総入館者数は館目標を下回ったものの、全国的には高い入館者数を維持している。
		・指定管理者制度以外で、同一の県負担や業務量でより大きな活動結果が得られる手法に代えられないか。	■ a. 代えられない b. 一部代えられない c. 代えられる	直営は人件費を中心に県負担が大幅に増加するため困難だが、他の制度も含め指定管理者制度との比較検討を行う余地はある。
	有効性	・指定管理者制度は、施設の設　置目的の達成に十分寄与する手法となっているか。	■ a. なっている b. 一部なっていない c. なっていない	適正な施設管理を行っており、成果指標もすべて目標を達成している。また、生涯学習事業や教育普及事業にも注力しており、幼児から高齢者に至るまで、あらゆる世代の活動の場、学習の場となっている。
		・事業効果をさらに上げる余地はないか。	a. 余地はない ■ b. 一部余地がある c. 余地がある	県の中核館として、すべての県民が優れた文化芸術に触れる機会を提供できるよう、移動展や遠隔授業といった出張事業を計画的に今後も開催する。
	（その他の観点）			

８．平成３１年度事業の実施に向けた方向性

区　分	現状維持	■ 改善	移管	廃止

（説明：31年度事業の実施に向けた方向性の理由・見直しの内容）

〇入館者数の目標達成のため、ヨーロッパの近代美術や現代美術を本格的に紹介する大型企画展や、その他魅力的な展覧会の開催により県内外からの誘客に努める。
〇建設から10年以上を経過し、施設の劣化に伴う不具合が頻発しており、維持管理費の増加が予想されるため、今後も光熱水費や事務的経費の削減に努めるとともに、大規模修繕が必要となる前に、毎日の点検及び早期修繕にしっかりと取り組んでいく。
〇県民ギャラリーを中心とした施設貸出事業は概ね好調であり、今後も県民の積極的な施設利用を促していく。
〇指定管理者の経営基盤を安定化させるため、カフェ事業について、コスト縮減を維持しながらも企画展と連動したメニューの提供などにより、黒字幅を拡大していく。

（上段に加え、成果指標達成状況が「未達成」であるのに現状維持の場合はその理由を以下に記載）